

連日の猛暑！高温障害の対策をしましょう！

異常な気象が続き、水稻の生育への影響が危惧されます。これからの時期は出穂～登熟を迎え、水稻の一生の中でもっとも水を必要とするため、出穂前後3週間は、常時湛水にて品質向上に努めていただくようお願いをしています。しかし、この異常な高温・高夜温で田んぼの水温が非常に高くなり、稲の体力が消耗し高温障害を受けやすくなることから、湛水は出来る限り“ヒタヒタ”の浅水管理をおすすめします。ただし、湛水管理によって品質向上（乳白粒、心白粒、胴割粒、茶米、死米の増加を防ぐ）、収量向上、カドミウム吸収を減少させる効果もあるため、田んぼの水を絶やさないよう十分、水管理に注意をお願いします。

- 今年はお穂前後3週間の常時湛水は深水にせず浅水管理にする。（高水温対策）
- 水戸尻をしっかりと止め、あぜの亀裂や穴をふさぎ、漏水を無くし、無駄なかけ流しにならないように！
- 乾燥による自然減水で部分的な土の乾燥が無いように注意する。（圃場全体確認）
- 今年の琵琶湖の水温は現在、夜間も高く、琵琶湖用水の圃場は夜間のかけ流しをしても、田んぼの水温がさほど下がらず冷却効果はあまり期待できません。
- 用水利用にあたって、かけ流しや深水管理等、必要以上の取水にならないよう、計画的な水管理を徹底していただくようお願いいたします。
- 猛暑の影響で稲の葉色が青くならない場合、稲が栄養不足で消耗していると思われる。この場合は早い時期に追肥を施用して下さい。



農作業中の熱中症に注意をしましょう！

熱中症の予防法

- ①熱中症の予防には、「水分補給」と「暑さを避けること」が大切です！（帽子の着用、通気性の良い衣類の着用）
- ②水分・塩分補給をしましょう！（こまめな水分・塩分補給、気温の高い時間は作業をしない、こまめな休憩）